長生村長賞

杉山アーサ様/埼玉県/72歳/女性/主婦/かつて勤めていた病院の桜の木にあてた手紙

お元気でしょうか？

あなたとお別れして、もう十数年以上が経ってしまいました。

春のあなたの美しさと言ったら……しばし仕事を忘れて見惚れていたものでした。

四階建ての小さな古い病院の小さな庭。

あなたは建物を囲むように枝葉を広げ、がっしりと根を張り、病室を見下ろしていましたね。

桜をこれほど間近で見たことはありません

満開になると二階の病室は花の反射光できらめき、めまいがするほどで、三階に上がれば、下界一面が白く輝く海原でした。

私たちスタッフは蕾が膨らんでくるころから、気象予報士よろしく、開花の話題が挨拶代わりです。

もちろんあなたの美しさは春だけではありません。四季折々、違った装いに感慨深いものがありました。

あの病院は入院患者の終の棲家でもあったので、なおのこと患者さんはあなたに癒されたことと思います。

私も事あるごとにあなたと向き合い、気持ちを穏やかにすることができました。

それが突然の閉院、驚きました。ただ、建物はテレビや映画のロケ施設として残り、あなたは切られないで済んでいるそうですね。

よかった！

私たちは皆、あなたのことを忘れてはいませんよ。

患者さんに寄り添い、優しく見送ってくれましたね。

あなたは一人ひとりの記憶の中で輝き続けています。

今あなたは、カーテンの閉じられた窓をどんなに寂しく眺めていることか。

来年の春には元同僚を誘って遊びに行きますね。

会いたいです！